

# 青螺山 ▶ 松浦川 ▶ 玄海

青螺山

佐賀の森林

人工林の割合は全国1位！！

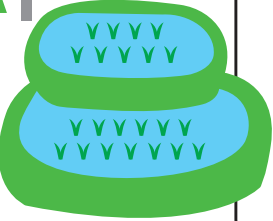
県の面積の45%を森林が占めています。県内の森林で人の手によって植えられた人工林(主にスギ・ヒノキ)の割合が67%というのは、なんと全国1位。昔の人たちは未来のことを思ってたくさんの木を植林しました。

微生物が分解した養分たっぷりの腐葉土

未来へつなぐ

NPO法人 SAGAアウトドアガイドクラブ

登山ガイドボランティア、九州自然歩道ボランティア、天山山頂の笹刈りボランティアなどの指導・啓発活動を通して、アウトドア活動の楽しさや、マナーなどを人々に発信しています。また、九州自然歩道のごみ拾いや登山道の簡易補修をボランティアで行っています。



棚田

棚田は災害を防ぐ

山の斜面に階段のようにつくられた「棚田」は、私たちの生活にとって重要な役割を果たしています。整備された棚田や水田には水をためる機能があります。もし、棚田が荒れていたら、大雨のとき土砂とともに雨水が川に流れ河川の氾濫が起こる原因になってしまいます。

腐葉土の養分がしみ出た森の水

松浦川

未来へつなぐ

自然と暮らしを考える研究会

唐津市相知町で、地域の自然や歴史文化を学び、子どもと協同しながら次世代に向けて安心して暮らしやすい環境の創出と整備を目指しています。地元の幼稚園・小中学生に向けた水生生物、水質調査などの学習会を開催したり、厳木川河川敷の除草、ごみ拾いを行っています。



松浦川の揚水

平野の水を上場台地に揚げる

黒髪山系から松浦川へと流れる水を上場台地全体へ送る場所が「松浦川揚水機場」です。水源となる松浦川から4基のポンプで水をくみ上げて、地下につくられた全長300kmもの導水管を通じて呼子町や加部島へ水を送っています。



虹の松原

平野を守る景勝地

幅約500m、長さ約4kmにわたる虹の松原は、日本三大松原にも数えられる景勝地としても有名。17世紀の初め頃、新田の開発のために植林したのが始まりと言われ、現在は防風・防砂・防潮林の役割を果たしています。



虹の松原クリーン大作戦

ため池

上場台地ではため池で水源を確保

水源確保が大きな課題であった唐津の上場台地では、水を確保するためにたくさんのため池をつくって雨水を貯め、用水路を掘り、水田に水を引き入れて農業を行ってきました。



玄海



さがっ子リレー放流

川から運ばれた森の養分で豊かな海に

